

序 「炉ばたセイ談」の生い立ち

桐野 三郎

「炉ばたセイ談」は「炉ばたセイ談会」（入来武家屋敷茅葺門邸）が一年に一回（八月）発行する機関誌です。

「炉ばたセイ談会」は作家 歴史家であった故入来院貞子氏（一九三二—二〇一一）が所属する鹿児島ペンシルクラブで平成十三年に提唱、同クラブ代表の相星雅子氏ほか数名の会員がこれに賛同、他に新聞 テレビ関係者、高校・大学の教職員ほか地元の元町長などが加わっていたき、入来武家屋敷の囲炉裏辺で「セイ談」を語り合う会としてスタートしました。

「セイ談」のセイは聖、清、正から醒、政、性まで、つまり話題は問わずお互いの夢を啓くという程度の、堅苦しくない会という意味です。

会は当初武家屋敷の一軒をお借りしてスタートしましたが、行政側の制度変更により借家制度が廃止された後、本拠を茅葺門邸、即ち入来院重朝、貞子ご夫妻宅に移して今日に至っております。機関誌「炉ばたセイ談」は入来院貞子氏が編集長となり平成十七年秋に創刊、第八号まで手掛けていただきましたが、貞子氏が同二十二年に急逝された後を承けて中西喜彦氏（鹿児島大学農学部名誉教授）が第七号以後を担当、今日に至っております。

本誌の内容は創刊号編集後記にありますように硬軟、左右なんでもありますが、執筆者には一言言を持つ会員も多いだけに、入来武家屋敷群の一角から発信されるこの小冊子が、いささかなりとも文化的な刺激となり得ればと念じております。

「炉ばたセイ談」生みの親といってもいい故入来院貞子氏の願いも、祖霊の瞑るこの入来の地でささやかながら、一隅を照らす灯を点したかったのではないのでしょうか。

（炉ばたセイ談会代表）